

令和5年2月13日

2月の木材価格・需給動向

1. 国産材(北関東)

栃木県では1月に県北地区で降雪があり、原木生産は減少したが、その後入荷は順調に回復。製材工場の引き取りは原木の凍結で少し遅れ気味。スギ3m柱材、4m中目材とも17,000円/m³前後で先行きは弱気配。ヒノキの3m柱材21,740円、4m中目材26,660円でともに強保合。スギ小径木は1万円前後で横ばい。

群馬県では降雪も少なく、原木入荷は順調。製品の引き合いは首都圏、地場とも少ないが、土木用材の受注が年度末に向けやや回復傾向にある。製品在庫は全ての品目で増加。製品価格は現状維持で変わらず。電気代や燃料費、消耗品の値上がりの影響が大きく、製品価格への製造コストの転嫁が課題になっている。

2. 米材

米国の製材品市況は昨年11月以降下落傾向にあったが、1月第1週に底を打ち4週連続で上昇。北米製材工場の相次ぐ減産表明による供給の減少予測が反転の要因である。SPF各製材工場は引き続き減産と新たな閉鎖を、スタッド工場も2週間の操業停止を発表している。一方、原木価格は下落基調にある。大雪等の伐採阻害要因は発生しておらず、港頭在庫は低水準ながら輸出向け船積みは順調である。米マツIS級並の2月積み対日輸出価格は前月比\$50下げの\$1,050/千SCRで妥結した模様。ランダムレングス紙発表の15種平均価格(2/3)は\$412/M、1月頭に比べ10.5%の上昇。

12月原木入荷は166千m³と前月より回復、1~12月累計は2,218千m³(前年同期比2.1%減)。カナダ入荷は累計で0.2%減とほぼ前年並み。出荷は191千m³で回復、1~12月累計は2,292千m³で前年とほぼ同量。在庫は減少し133千m³となり、在庫率は0.75ヵ月で1ヵ月を下回った状態が続く。欧州集成材の先物価格の下落による製材品価格の先安感が荷動きの低調を助長しており、国内製材各社は減産傾向になっている。東京木材埠頭の1月製品入荷は10千m³(前月比24.7%増)、出荷は12千m³(同18.1%減)、在庫は31千m³(同0.1%減)。産地大手シッパーの入港後値決めなど新規契約数量は少ない。国内在庫が減少しており、第2・四半期にはある程度のオーダーが入ると予想される。2/1に国内製材最大手が米マツ製品(正角/平角)の価格調整を行った。

3. 南洋材

サラワク州では雨期真っ只中で出材は大きく減少し、原木価格は若干上昇傾向。1月のインド向けは1船のみだが、材が揃わずの出港となった。日本向けも満船ではなく4,000m³弱。PNG、ソロモンでも雨期で出材は低調。中国が買い姿勢を強め価格は強含み。サバ州では日本向け1月積み予定が2月にずれ込んだ(3,000m³弱)。2月予定の原木入荷は7千m³、出荷は7千m³、在庫8千m³。製材品入荷は25千m³。フリー板はインドネシアのメルクシ松は在庫調整が進んでいるが、中国の赤松はコストが高く在庫調整が進んでいない。

4. 北洋材

産地では冬伐り原木の入荷が本格化しているが、日本、中国市場とも引き合い鈍く、積極的な買い付け交渉にはなっていない。日本側も在庫・為替状況を睨みながら一定量の買付は進むだろうが、以前のような価格のアップ/ダウンは起きないと見られる。日本側のアカマツ原板の補充買いが動き出したが、値上げ等々の動きはない。アカマツ完成品は日本側バイヤーの慎重な態度で最小限の数量での注文。国内では野縁3mなど一部の良材製品に不足感が出ているが、4mは未だ低調。国内製材工場ではロシア製品を巡る風評や価格高騰による代替材の出現で需要減少に苦しんでいる。DIY/一般ルートとも引き合いは低調で各社生産調整を行っている。12月の製品入荷(東京+川崎)は8千m³とかなり減少してきたが、この辺りがボトムで入荷水準は戻る見込み。出荷は11千m³で依然として低水準が続く。在庫は55千m³で今後はこの水準で横ばいと予想される。

5. 合板

合板メーカーでは生産調整の中、国産原木の受入制限を継続している。仕入価格は下げているが、供給側の姿勢によっては価格にやや軟化の兆しが見られる。米マツ原木の産地価格は軟化しているが、カラマツやヒノキより割高で在庫も潤沢であるため引き合いは乏しい。

12月の国内合板生産量は21.1万m³、うち針葉樹合板は20.7万m³、出荷量は20.4万m³で在庫量は17.8万m³、うち構造用合板の在庫は14.4万m³と前月より増加。国産針葉樹合板は年明けに荷動きが一段と鈍化し、また需要家の値下げ圧力で直需向け一部に値下げの動きが出ている。しかし相場を崩すほどの下げ幅ではない。輸入合板の港頭在庫は依然高水準であるが、在庫は構造用などの動きの悪い品目に集中しており、塗装型枠用・型枠用合板には過剰感がない。当面の入荷は低水準であるが、出荷が鈍く市況は全般に弱気

で推移すると見られる。12月の合板輸入量は19.3万 m^3 (前月比1.7万 m^3 増)で、インドネシア以外の主要国からは微増しているが、中国産が大幅に減少し、針葉樹合板は2,919 m^3 (12mm換算14.5万枚)。インドネシアでは各国からの新規受注が少なく、合板メーカー各社は減産措置を継続している。マレーシアでも各国からの引き合いは大幅減になっており、原木伐採量が減少しているものの原材料に不足感が出ていない。

6. 構造用集成材

各社契約量を減らした昨年第3・四半期契約分のラミナが入港しており、第4・四半期契約分も入港が始まりつつある。今年第1・四半期契約は m^3 当たり€280程度であるが、第2・四半期契約は€20~30アップのオファーが予想される。1月時点のラミナ入港価格は58,000円/ m^3 程度で製品価格に見合うものになりつつあるが、在庫ラミナ価格の面から製品価格の大きな下げは難しい模様。第2・四半期契約の値上げ基調と輸入集成材の入港量から見て、先行き価格は安定していくものと予想される。

7. 木材チップ(東海)

チップ原木は製紙・バイオマス用とも引き合いは強く、高値材も無理して購入している。解体材は発生、入荷ともに良くない。一部で処分費値下げによる集荷増の動きがある。製紙用は年末年始に大手製紙会社の定期修理により若干の一服感が出たが、国産チップ(LC/NC)の増集荷基調は継続。燃料用は不足のため出力減と運転停止のバイオス発電所も見られた。製紙用、燃料用ともに在庫の積み増しは例年以上に厳しい。

8. 市売問屋

降雪の影響も余りなく荷物は来ているが、材木店の仕事が少ないため当用買いの域を出ていない。値を下げてくると予想してか、余分な材は買わない。国産材、外材構造材とも既製品で不足材はない。スプルーンス良材の造作材は高すぎて売れない。価格は横ばいであるが、下げ基調にある。

9. 小売

製品の手持ち在庫の消化が遅れており、製品の新規発注は抑えられたままである。1~3月は建築現場も減ってくるので、荷動きの停滞が続いている、スギ、ヒノキ構造材は弱含み推移。外材製品は今後の入荷減少により昨年後半と比べると、値下がり幅が縮小している。WW/RW構造用集成材は依然として荷もたれ感が強く価格は下がっている。スプルーンス材は公共施設、スギ材は店舗関係に引き合いが強い。またスギ造作材は高値で推移する米材造作材の代替品として引き合いが強くなっている。

参考資料

(一財)日本木材総合情報センター

令和5年2月13日

1. 主要外材入出荷在庫量

		入荷量	出荷量	在庫量
米材	丸太	→	→	→
	製材品	→	→	→
北洋材	丸太	輸出禁止	*	*
	製材品	→	→	→
南洋材	丸太	↘	↘	→
	製材品	→		

注)北洋製材品は東京・川崎

矢印の表示は今月に対する翌月の動向を、下記のように示したものである。

- ↑ 急増・急上昇
- ↗ 増加・上昇
- 横ばい
- ↘ 減少・低下
- ↓ 急減・急落

2. 合板供給量

国内製造量	輸入量		
	計	インドネシア	マレーシア
↘	↗	↘	↗

3. 価格動向

樹材種	形状	取引条件	樹種・寸法等	動向
国産材	丸太	卸売価格 (北関東、県内産 市場土場渡し)	スギ柱材(3m)2等	↘
			スギ中丸太(3.65m)2等	↘
			ヒノキ柱材(3m)2等	→
			ヒノキ中丸太(4m)2等	→
	製材品 (関東近県産 板は東北産)	首都圏・市売り 価格	スギ柱角(KD)10.5×10.5×3m 特等	→
			スギ柱角(KD)12.0×12.0×3m 特等	→
			スギ間柱(KD)10.5×3.0×3m 特等	→
			スギ加工板1.3×18.0×3.65m 特等	→
			スギタルキ3.0×4.0×3.65m	→
			ヒノキ柱角(KD)10.5×10.5×3m 特等	→
ヒノキ柱角(KD)12.0×12.0×3m 特等	→			
ヒノキ土台角12.0×12.0×4m 特等	→			
米材	丸太	産地価格	米マツ ISタイプ	↘
		国内卸売価格 (京浜・オントラ)	米マツ ISタイプ コースト	↘
	製材品 (カナダ産・ 現地挽き) (国内挽き)	東京・問屋店頭 渡し価格	米ツガ桁角(KD) Std&Btr S4S 10.5×10.5×4m	↘
			SPF 2×4 J-Grade R/L	↘
			米ヒバ土台角(GR) Std&Btr 4・13/16'' 13'	↘
米マツ平角(KD) 特等 10.5×24.0×4m	↘			
南洋材	丸太	産地価格	メランティレギュラー	→
		東京・水面筏 渡し価格	メランティレギュラー 60cm上、4m上 製材用 メランティレギュラー 60cm上、4m上 合板用	→
	製材品	産地価格	ホワイトセラヤ 平割(サバ州産)	↗
		東京・問屋店頭 渡し価格	同上2.4cm×込み×4m 定尺1等	↗
北洋材	製材品	国内卸売価格 (京浜・オントラ)	アカマツ(KD)30×40上級	↘
		アカマツ(KD)16×40上級	↘	
欧州材	製材品 (現地挽き)	東京・問屋店頭 渡し価格	ホワイトウッド 間柱 3.0×10.5×3m S4S FOHC	↘
		ホワイトウッド ラミナ 2.4×11.0×3m上 ラフ乱尺	↘	
集成材	国産	東京・問屋店頭 渡し価格	ホワイトウッド 無化粧 JAS 5プライ	↘
			スギ 無化粧 JAS 5プライ	↘
	欧州産	//	10.5×10.5×2.98m	↘
合板	国産	東京・問屋店頭 渡し価格	タイプ2 F☆☆☆☆ 2.3mm厚 3×6	→
			タイプ2 F☆☆☆☆ 4.0mm厚 3×6	→
			型枠 12.0mm厚 3×6	↘
			針葉樹構造用 12.0mm 3×6 F☆☆☆☆	→